

令和3年度第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和3年7月6日（火）14時00分～16時30分

場所：市民ふれあいプラザ「コムコム」多目的ホール

【出席委員】

伊藤市之丞、伊藤公孝、大穂耕一郎、倉内肇、小塚光子、斉藤貢悦、長崎久美子、中嶋友規、長門良幸、成田耕介、野宮加代子、濱田純、廣林孝文、福原勝紀、福森卓（五十音順、敬称略）

【オブザーバー】

三浦栄一

【欠席委員】

池田文明、奥田実里、織山友里、小塚雅生（五十音順、敬称略）

【説明員】

河田浩文総務部長、佐藤進財務部長、小松正彦市民生活部長、石崎賢一健康福祉部長、佐藤栄作産業部長、金澤誠産業部政策監、浅村武則建設部長、小坂竜也教育次長、長岐篤市消防長

【事務局】

長岐孝生総合政策課長、高田徹政策係長、永坂洋男副主幹

【会議の概要】

○新委員の紹介

人事異動等により委員に欠員が生じたため、総合戦略設置要綱第4条の2の規定に基づき、事務局において後任の委員を選出。

秋田県信用組合鷹巣支店長（伊藤公孝）委員、ハローワーク鷹巣出張所所長（斎藤貢悦）委員、北秋田市商工会青年部長（中嶋友規）委員、秋田銀行鷹巣支店長（長門良幸）委員、北秋田地域振興局地域企画課長（廣林孝文）委員。

○オブザーバーの紹介

総合戦略検証会議設置要綱第9条の2の規定に基づき、座長推薦により秋田大学北秋田分校長（三浦栄一）氏をオブザーバーとする。

1. 座長挨拶

2. 職務代理者の指名について

昨年度までの職務代理者である安保委員が異動により退任となったため、総合戦略検証会議設置要綱第7条の規定に基づき、座長の指名により新たな職務代理者を「小塚光子」委員とする。

3. 協議事項

○事務局（永坂副主幹）説明

- ・本会議の資料の確認と会議の進め方について説明。
- ・資料の訂正として効果検証シート（個票）のNo. 49の平成27年度目標値を訂正（362人を115人へ）、平成29年度目標値を訂正（139人を125人へ）。
- ・第1期総合戦略に記載されている令和2年度の数値目標について、第1期総合戦略の推進期間を暫定的に1年延長したことに伴って令和2年度の数値目標を令和元年度と同様となっていることを説明。
- ・資料1「総合戦略・総合計画目標値達成状況」と資料2「北秋田市人口ビジョンの推計値との比較」について説明。

（1）北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 効果検証シートについて

効果検証シートについて、各部長等より説明を行った後で委員との質疑応答を行った。

《質疑応答》

質疑は総合戦略と総合計画に区切って進めることとして総合戦略は基本目標毎に、総合計画は基本理念毎に議論を行った。

○総合戦略

「基本目標1 産業振興による仕事づくり」※検証シートNO. 1～28

質疑等なし

「基本目標2 移住・定住対策」※検証シートNO. 29～32

大穂委員）シートNo. 29の達成率が210%というのは目標値が低すぎたということだと思うので今後は目標値をもっと高く設定することをお願いしたい。また、阿仁地区は住宅難が最大の課題であり、家を探すのに苦労する。そのため、住宅対策を含めた施策を行ってほしい。

総務部長）目標値の設定については、目標値を上げるべきと考える。住宅対策については、秋田銀行から社宅を譲り受けて入居希望者の公募を行っている。無償で譲渡するのだが、実際に現物を見ないとなかなか手をあげられないという実態がある。コロナ禍のため、阿仁に興味があっても阿仁に来られない状況でもあるが適切な方に適切な時期に譲渡したいと考えている

「基本目標3 少子化対策」※検証シートNO. 33～42

小塚委員) シートN o. 33について、目標値が141人で継続になっている。平成27年度の実績が156人で、令和2年の実績は84人になっている。このままでは来年夏までには人口が3万人を割ってしまう。北秋田市の将来を考えたときに何よりも少子化対策を真剣に考えないと危険である。保育現場でも今年度0歳児が入らなかった保育園が3ヶ所あり、このままでは経営が成り立たなくなるため保育園や小学校の統合ということになる。そのため、どうしたら生み育てやすい地域になるのか真剣に考えていかなければならない。男女共同参画にもつながるが、産み育てやすい地域にするためには地域の中小企業への支援を行っていかなければならない。子どもたちは地域のために地域の方々と共同して避難訓練や、内陸線、ゴンドラ、比内地鶏のPRなどを行っている。

大穂委員) 資料2の社会増減が▲116人というのは自治体のなかでは非常に良い数字だと思う。年々減ってきているので目標値を0にしても良いのではないかと思う。

健康福祉部長) 出生数の目標値について、総合計画後期基本計画では、現状にあわせて93名としている。出生者数を増やす取り組みとしては、子どもを育てる環境整備のみでは増えないと考えていて、他の施策の充実に伴って達成されるものと思っているため、男女共同参画、結婚支援、企業誘致等による就業・雇用場所の確保など他部署と連携を図りながら施策を展開していければと思っている。

「基本目標4 新たな地域社会の形成」※検証シートNO.43～66

福原委員) シートN o. 43～46について、自治会活動・運営が困難になってきているということだが、自治会活動が弱まると住民の協働意識が弱まるため心配されることが3点ほどある。①災害時の連絡体制、②文書配布回覧体制、③民生委員の選出、これらが欠けているのであれば市役所に対応していく必要があると思う。

福森委員) 今年度から防犯街灯の電気料金の補助金とか新しい施策を行っていただいているが、環境設備とか社会サービスのものをなぜ自治会費から負担されるのか疑問に思っている。除雪などでも動ける人が少なく人手が足りていない。また、自主防災組織を組織化できないということは自治会が崩壊していると思っている。そのようななかで今後どのような対策を行っていくのか住んでいて疑問である。

市民生活部長) 確かに各自治会組織が疲弊していると感じている。自治会長と話をするなかでは、自治会運営に関して高齢化の進行により自治会費を支払うのが困難になってきている方がおり、運営に支障をきたしているということで、財政的な支援として街灯の電気料金の助成、昨年度からはごみ集積所整備への補助金、一昨年から自治会運営の手引きを作成している。ただし、それらの支援だけでは追い付かない地域も出始めていると思っている。これは秋田県全体で共通している問題でもあり、今年度から県のコミュニティ生活圏形成事業のモデル地区として大阿仁地区でスタートする。そのような

事業と並行しながら支援の在り方について考えていかなければならないと感じている。また、コロナ禍のため自治会長に集まってもらう機会が取れない状況ではあるが、機会を見つけて相談等を受けていければと思っている。

健康福祉部長) 民生児童委員について、欠員が生じている状況であり、あらゆる地区の方々にお願いしているところだが難しい状況である。今後も積極的に欠員解消に向けて取り組んでいきたい。

福原委員) シートN o. 55について、空家について、若い人がいなくなってくると今後10年も経つと空家だらけになると思う。そのようななかで自治会があれば情報交換もできると思う。

大穂委員) 職員の対応が相談があったら対応するというような受け身に感じられるので各窓口センターには、将来地域をどうすればよいかを考えられる職員の配置をお願いしたい。合併してよいところも増えたが、住民要望が伝わりにくくなったという声も聞かれる。仙北市では数年前に地域運営体というものを作っている。これは、昭和の大合併前の小さな規模単位の運営体に支援を行って自主的に活動を行ってもらおうというもの。北秋田市でもそのようなことが出来るのではないかと思っている。これからは住民に投げるのではなくて地域を見てどうすればよいか考えられる職員が求められる。

総務部長) 空家が年々増える傾向にあるのはその通りである。空家が使える状態であればよいのだが、使えない状態だと解体しなければならないようなものが多い。そのため、使える状態のうちに次の世代につなげる取り組みが必要だと思う。一方で、自治会から使えなくなった空家の解体を市で対応してもらいたいという要望が多数あるが、市民の税金で行うことになるため個人のをどこまで市民の税金で整理するのかということをお同意を得なければならないと思っている。国でも登記に関する法改正も行われているので国の動向も踏まえて対応を考えていきたい。どうしようもない場合は行政代執行による解体も増えていくと思っている。

市民生活部長) 現状では窓口センターですべての相談を受け付ける体制にはなっていないため、地域のことを考えられる職員配置は今後の検討課題になるが、少なくとも座ったままの対応ではなくて住民要望のあったことを、その後のフォローアップを含めて各部署で連携をして一元的な対応に努めることで徐々に改善を図っていきたい。

○総合計画

「基本理念1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり」※検証シートNO. 67~74
福原委員) シートN o. 67について、市の開業医は70歳前後が多いなかで今後の医師不足が心配である。平成31年から秋田大学医学部では定員100名に対して地域枠を30

名増やしている。ただし、増やした分でどの程度期待できるのかわからない。しっかり見守っていった状況が厳しくなったら市民が声をあげて対策を行っていかねばならないと思っている。

健康市民部長）市内の開業医の高齢化は顕著である。市として後継者育成の補助金等により後継者に引き継ぐ対策等を行っている。こちらは実際に2開業医いる。また、新規開業対策として、新規開業補助金を実施しており実績としてこれまでに1件となっている。こちらは今後も全国規模で周知を図っていきたい。

また、地域枠の関係では診療所の医師が高齢化していることから秋田大学からの医師に頼らざるを得ない状況になっている。今後は地域医療センターなどの状況を確認しながらへき地への医師の派遣や常勤医の配置などについて秋田大学と連携を図っていきたい。

小塚委員）シートNo. 67 の総括に訪問看護体制の強化と一次医療機関の整備により、安全安心な医療サービスを確保することが出来たとある。書かれている通りであり、介護が必要な方や医療ケアが必要な子どもなどが訪問看護体制が整っていることによって安心して地域で暮らしていける。

「基本理念2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり」※検証シートNO. 75~85
質疑等なし

「基本理念3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむまちづくり」※検証シートNO. 86~97

福原委員）伊勢堂岱遺跡について、見学者が少ない。世界遺産になった場合にシャトルバスの運行だとか内陸線運行キャンペーンだとかを行う予定はあるのか。また、展示物が三内丸山遺跡と比べて見栄えがないので目には見えない縄文人の知恵（生活の知恵や資源の大切さ）だとかをアピールすれば関心を持たせることが出来ると思う。

教育次長）遺跡の見学者が少ないことについては認識をしている。内陸線ツアー事業への協力や民間への情報提供など遺跡に足を運んでいただく取り組みを行っていききたい。また、関心を持っていただくための取り組みはいただいた意見を参考にして考えていきたい。

「基本理念4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり」※検証シートNO. 98~112

質疑等なし

「基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり」※検証シートNO. 113~131

質疑等なし

濱田座長) 最後に、全体を通して何か意見等ある方。

三浦オブザーバー) 今回の検証会議の市当局側の説明について、非常にわかりやすく射を射ていたと感じている。各部署のトップが現状と課題をしっかりと把握していることが計画を推進していくうえで重要になるので、このことを庁内、部署内で共有することが大事だと思う。また、市民に対して見える化していくことが重要だと思う。次に、具体的な報告内容について、①「財政基盤の確立と健全な財政運営」の面から、少子高齢化に伴う人口減は避けられないので収入が減って支出が増えるのは確実である。昨年度はふるさと納税が大幅に増えたということなので今後は移住だけではなく関係人口をどのようにして増やしていくのかがポイントになってくる。北秋田市の魅力を内外に発信していくことが大切である。次に、②「生活や暮らしの安定や充実」の面から、インフラが整備されたとしてもそれが本当に安全安心なのかを実際に確認することが求められると思う。次に、③「市民の生きがいづくりと誇りづくり」の面から、コロナによって地域活動の制限や自粛が求められている状況で如何にして生きがいづくりや誇りづくりを行っていくかという課題がある。伊勢堂岱遺跡を見たことがある人が非常に少ないが、世界遺産になるこの機会に市民が遺跡を誇りに思えるようにするためにどのような取り組みを行っていくのかということが重要だと思う。例えば、遺跡だけではなく森吉山など北秋田市の観光資源を結ぶようなスタンプラリーなど。生きがいづくりでは、高齢者が活動を行いたいと思っても足の確保の面が課題になってくると思う。

小塚委員) シートN o. 75、76、82、84について、これからは共生社会を目指さなければならぬ。まだまだ障がい者への合理的配慮が浸透していないし、差別的用語も聞かれる。そのなかで昨年度に機関相談センターが出来たが、共生社会として住みやすいまちにするための取り組みを進めてもらえればと思う。これからの計画では障がい者が使いやすい施設の在り方を検討し、バリアフリー化を進めていくとあるが今後の施策に取り入れていく方向性があるのか確認したい。

健康福祉部長) 市では、令和3年度から第6期障がい福祉計画がスタートしており、そのなかで生活支援拠点施設整備に向けた取り組みを進めている。トイレなどのバリアフリーは、個々の障害に対応した機能を持つ設備を検討していきたい。

大穂委員) 環境美化活動について、各地域で行っているのをよく目にする。きれいにすることは大事なことだと思うが負担になっているのではないかと感じている。もっと手のかからない方法があると思っている。また、除草剤をまくとまいたところが枯れてしまって景観が良くないと感じている。市では景観を壊さない、きれいに保つためということをどのように考えているのか気になっている。

(2) その他

○事務局（永坂副主幹）説明

- ・ 次回日程の説明（令和3年8月5日（木）午後2時から 会場：コムコム）
- ・ 次回内容の説明（「第1回会議の質疑等への補足回答等」及び「地方創生関係交付金事業の検証」）
- ・ 会議のまとめ方の説明（第2回会議が終了したのちに一括して報告書を作成）

閉会